

青山

AOYAMA

題字/浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆 祝下



新年会で年頭の挨拶をする中島住職。

愚者の自覚

梅窓院第二十五世

中島真成

平成十五年もはや三月、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、前号でもお伝えしました。七月に建物が完成する本堂ですが、その内陣の仏具は完成後からしつらえる段取りになっていきます。今回の本堂復興は皆さまから寄付をいただいた方針で参りましたが、記念に残る品を寄進したいという声もあり、相談の結果、内陣の荘厳仏具には皆さまからの浄財を募ることに致しました。

くわしくは同封の勸募のお願いのチラシをご覧ください。

さて、本堂復興工事に伴う墓地内通路の全面改修工事について最後のご報告をさせて

いただきます。

豪雨時の低地への雨水流れ込みで周辺地域の皆さまに迷惑をかけていたことを鑑み、今回は墓地内すべての通路を透水性の高い素材に変え、さらにU字溝を通し、新しく何箇所かに掘った井戸に流せるようにしました。それでも間に合わない場合を想定し、二箇所下水道も新設しました。

こうした三段構えの対策を施すことで、近隣の皆さまへの迷惑を回避できる設備の整った墓地へと一変したわけですね。

とはいえ、江戸時代からの墓地でもあり、全面改修で迷惑をおかけした方々も少なくはなかったかと思えます。誌面からではございますが、改めて御詫言ひ申し上げます。

今回の改修工事は問題の原因をその元から解決しようと試みた訳ですが、こうした見直しは、仏教の教えとも相通じます。あるがままの自分なくもりなく見つめ直すことは、まさに、浄土宗のスローガン（愚者の自覚）につながります。

何かと悪いことを社会や世間のせいにしてきた昨今ですが、自分のいる世界での出来事には変わりありません。自分を見つめて、自分の出来ることを探すようになっていくのではないのでしょうか。

行事予定

春彼岸法要会/彼岸寄席

三月二十一日(金)

寄席 午後一時～ 仮本堂

法要 午後二時～ 仮本堂

落語 入船亭扇好師匠

〔詳細は三面へ〕

はなまつり

四月五日(土)～八日(火)

※受付に甘茶をお出ししております。ぜひお越し下さい。

春の特別団体参拝

信州善光寺団体参拝の旅

五月十六日(金)・十七日(土)

七年に一度の御開帳参拝。善光寺の魅力満喫する、団参

ならではの行程となっております。

〔詳細は八面へ〕

三ヶ寺合同海外団参旅行

魅惑の国オーストリアと

古都ブラハを訪ねて

八月二十日～二十八日

(七泊九日)

傳通院・祐天寺・梅窓院の三ヶ寺合同行事である海外団参

旅行。音楽の都ウィーンに、

当院のリサイクルでお馴染みのファンデンブック氏を訪ね

ます。

〔詳細は八面へ〕

梅窓院通信

はなまつり

毎年四月八日はお釈迦さまの誕生を祝う「はなまつり」の日。「灌仏会」が正式な名前です。お釈迦さまは今からおよそ二千五百年前、インドのヒマラヤ山脈の麓、カピラヴァスツという国の王子として生まれました。誕生の時、空からよい香りのする水が降りそそぎ、天も地も虹色に輝いたといわれます。生まれてすぐに七歩あるき、右手で天を左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と仰った話は大変有名です。

梅窓院でもお堂を花で飾り、釈迦像に甘茶をかけて、お祝いします。どうぞご参拝においで下さい。





増上寺の御忌唱導師をつとめる真哉前住職
(平成元年四月)

青山 梅窓院史

《真哉住職から真成住職へ》

その ◆ 最終回

梅窓院の再生を担った中島真孝前々住職から、その足場をより強固なものにした真哉前住職へ。そして本堂復興という永年の夢を現在形にしていく真成現住職へ。

この「青山」創刊号から続いたこの「青山」梅窓院史も今回で最終回となる。

さて、梅真会という形で自分なりのスタイルを作った真哉前住職だが、不本意ながら、いつも大きな爆弾を体に抱えていた。

それは戦争に召集され、被災した広島で患った心臓の病である。体格の良かった父真孝上人の血を引く真哉前住職も決して貧弱ではなく、立派な体躯だった。だが、原爆により壊滅した町の復興作業に取りかかるには、あまりに早すぎたのだ。被爆地で作業する兵隊の体を残っていた放射線が容赦なく蝕びんだ。

今回のこのシリーズの取材を通じて、檀家さんの印象に残っているのは空気エンマとあだ名された真孝上人であり、真哉前住職の名前は出てこない。出てきても「病弱な」という言葉が必ずかぶさった。ましてや、梅真会に所属する多くのお坊さんが法事や行事を手伝ってくれているので、檀信徒が直接住職と顔を合わせることもそう多くはなかった。印象が薄いのも致し方ないことである。

さて、真孝上人がハワイに渡ってからは副住職の肩書きながら、真哉前住職はすべてを取りしきり、山門改修、祖師堂建立など、梅窓院の足固めにその持てるすべてを注ぎ込んだ。僧侶を武將にたとえるのも何だが、いわば家康の陰に隠れながら江戸幕府三百年の足固めをした二代將軍秀忠のような存在だった。しかし、その真哉前住職は長患いの末に心臓の病で遷化

された。時に平成三年十一月のことだった。病弱な自分の経験を活かし、宗教と医療の理想的な協力施設、いまでいうホスピスを作りたいという夢半ばにしての遷化だった。

そして中島家が梅窓院に入って三代目にあたる真成住職がその跡を継ぐことになる。祖父、そして父から梅窓院を継いだ真成住職は昭和三十二年六月に埼玉の倉常寺で生まれ、寄り道することなく梅窓院の第二十五世として現在に至っている。

その真成住職の最大の望みは本堂復興である。昭和二十一年に戦火で灰塵に帰した後は、講堂を本堂として使ってきた。この読者の記憶にも残る丸輪をシンボルとした講堂は、大正時代の山田住職時代に建立されたものである。当時としてもモダンだったこの講堂はその後昭和、平成と梅窓院のシンボルであった。こうした印象深い建物であったこともあったのだろう。真孝上人も真哉前住職もお寺の規模にしては少々こじんまりした講堂ながら、本堂としてきたのである。

こうして二代に渡って残されてきた講堂を取り壊し、新しく本堂を建て直す。この真成住職の計画には復興しなくてはならない理由がある。講堂の老朽化である。

大正時代の建物は雨漏りをはじめ、電気施設など目に見えない部分が痛み過ぎ、耐震性にも問題が生まれてきたのである。また高齢化にともなう対応も今の建物ではできないのである。

こうした理由から、都心寺院であることを充分考慮し、かつ檀信徒に経済的負担をかけたないということが大前提として本堂復興の大事業に着手したのである。

その詳細は本稿の趣旨ではないが、真成住職の決断が後世の梅窓院に語り継がれることは間違いない。

新しい梅窓院がどういうお寺になっていくのか？

どういう形になるにせよ、青山家から始まった歴史と伝統の延長線上の梅窓院であることに変わりはない。

(ルポライター 真山剛)



梅窓院第二十五世となった中島真成住職の晋山式
(平成七年十一月)。

春の

お彼岸

まもなく
春のお彼岸を迎えます。
ご家族そろって
ご先祖さまをお参りしましょう。

春彼岸会法要

三月二十一日(金)

午後一時～ 彼岸寄席

午後二時～ 彼岸会大法要

梅窓院仮本堂にて

入船亭扇好師匠



入船亭ゆう一さん



春彼岸寄席

毎年恒例となりました彼岸寄席。落語を間近で聞くチャンスです。ぜひお誘い合わせの上、皆さままでお越し下さい。
※入場無料

前座 入船亭ゆう一さん
落語 入船亭扇好 師匠

〔プロフィール〕

入船亭扇好

S三八 長野県生まれ

S六〇 入船亭扇橋に入門

H元 二ツ目昇進

二代目扇好を襲名

H一〇 真打昇進

現在古典落語を中心に活動。ラジオ、テレビにも多数出演中。永六輔主催の水住亭のレギュラーメンバーでもある。趣味はスキーや日本舞踊から古道具集めまでと幅広い。

お彼岸に寄せて

今回の春彼岸で仮本堂における大きな仏事は最後となり、次の盂蘭盆会及び施餓鬼会より新本堂で催されます。

仮本堂に移ったばかりの頃、施餓鬼会をはじめとして当院の主要な仏事は、新本堂完成まで催すことが出来なくなってしまうのではないかと内心危惧しておりましたが、住職以下職員一同、皆で苦心して何とかやってこれました。これもひとえに檀信徒皆さま方のお陰と感謝しております。

新本堂完成までの約二年間、失礼が多々あり、本当に申し訳なく思っておりますが、皆さま方のご理解、ご協力のお陰で何とかここまでこぎつけました。本当にありがとうございます。

今年の夏にはより近代的、合理的に生まれ変わる新本堂において、盂蘭盆会・施餓鬼会を執り行っていくますが、工事が最終的に終わるまでは、まだしばらくございますので、引き続きご協力の程、宜しくお願い致します。
(法務)

彼岸塔婆お申込み方法

同封のハガキを使い、三月十一日(火)必着でお申し込み下さい。塔婆回向料は一本七千円とさせていただきます。

お支払方法

振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付まで直接お持ち下さい。

◆お植家様へのお願い◆

お彼岸期間中、当院はお参りに来られる方で大変混み合います。来寺の際は、電車等公共の交通機関をご利用下さい。

駐車場はありませんのであらかじめご了承下さい。

十夜法要 千年にも勝る善行

平成十五年十一月十五日(土)

今年、梅窓院では戦前まで行われていた「十夜法要」を新しい形で復活させることとなりました。

十夜法要とは、約五五〇年前に伊勢守平貞経の弟、貞国が京都にある天台宗の真如堂で修したものが始まりで、後に浄土宗鎌倉光明寺でも行われ、浄土宗ではなくてはならない法要として現在に至っております。

もとは陰暦十月五日の夜より、十五日の朝の十日十夜に渡って行われるもので、その間不断念仏を称えて別時の念仏を修し、阿弥陀様のお慈悲に感謝するものです。今日では五日、三日あるいは一日と期間は短くなりましたが、浄土宗の経典「無量寿経」にも、「この世で十日十夜の間善行を行うことは、仏の国で千年間善行を行うことよりも尊い」と説かれております。

梅窓院の十夜法要は、毎年十一月の第三土曜日、今年は十一月十五日に執り行う事となりました。この大切な法要に参加し、仏の国での千年にも勝る善行を是非積んで頂きたいと思っております。

今年梅窓院本堂が新たに完成致します。今までの「お寺」のイメージと全く違った新世代の建物です。以前より進められているお墓の整備と併せて以前の面影は殆どなくなり、新たに檀家になられた方々も非常に増えるなど、梅窓院は少しずつ変化しております。

どんなに形が変わっても、人と人との関わりは変わることをなく持ち続けていきたいと思っておりますが、最近では檀家様も世代交代や核家族化の影響、また新しく檀家になられてお寺とどう関わってよいか分からない等の理由で、お参りの方があまり増えないのが実情です。

墓参には行くけれど、住職の顔も見ることがないとおっしゃる方もおられます。お寺と皆さまとの間に隔たりが広がっているのです。このままではお寺の行事も形ばかりのものになってしまいます。こういった現状から、いま皆さまがお寺に何を一番求めているのか、梅窓院は皆さまに何が出来るのか考えてまいりました。

それは皆さまと私どもが直接顔を合わせ、かしこまらずに住職ともざっくばらんにお話する機会を増やしていく事です。お寺だから、お坊さんだからと言って遠慮なさらずに、皆さまの生の意見を沢山お聞かせ下さい。お寺はお坊さんだけのものではありません。檀信徒の皆さまとの繋がりを作っていくための「場」なのです。その場所作りをお手伝いするのが新しい梅窓院の役割だと思っております。

その第一歩である「十夜法要」は新しい試みです。現在

梅窓院で行われている行事の多くは法要と墓参が中心で、皆さまがお寺の私たちとじっくり接する機会は殆どありませんでした。しかし、十夜法要では音楽をふんだんに取り入れた梅窓院オリジナルの、いわば音楽法要です。太鼓が入りコンサートのような感じになるでしょう。また従来との大きな違いは、その後の懇親会にあります。

温かい汁物等の料理を頂きながら、住職とも沢山お話しして頂き、和気藹々とした会にしたいと思っております。十夜会は夕方から始まります。途中からでも結構ですので、どうぞ会社帰りにでもご家族皆さままでいらして下さい。老若男女あらゆる方が楽しめるように、くじ引きやゲーム等あれこれと企画しております。

詳しい日時、内容等は追って広報誌「青山」にてご案内させていただきますので、皆さまにお誘い合わせの上、どうぞご参加下さい。心よりお待ちしております。

(法務)



梅窓院を

囲む人々

茶庭師、もしくは作庭家！
今回は梅窓院茶室の庭を
手掛けてこられた
風間宗景さんに聞く

晴風苑

施主の思いと
自分の狙いが一致した時、
まさに
職人冥利につきますね。

さん



蹲踞

この字は何と読むのでし
うか？ 皆さん、おわかりに
なりますか？

答えは「つくはい」です。
茶席に入る前に手と口を清め
る竹から流れ落ちた水を受け
る石のことで、茶庭の中心、
もともと注目されるものです。

千利休によって日本の伝統
文化にまで高められた茶の湯
作法から道具、床の間の掛け
軸や花、そして着物とその奥

行きはまさに「茶道」という
芸術といった感があります。
この茶の湯の舞台となる茶
室と茶庭、
さんは学
生時代からこの茶庭作りに携
わったこられた、まさにその
道のプロ。そして何より梅窓
院にあった茶庭を、お父さん
と一緒に手掛けられてきた、
梅窓院とご縁の深い茶庭師な
のです。

「父は明治の最後の年に、日
野（東京多摩）の農家に生ま
れました。植木職人となった
父が戦後茶の湯を遠州流の宗
家から教わったことから南青
山の小堀宗明家元の茶室、其
心庵の露地を作庭したそうで
す。それから茶庭師になった
のですが、父は私に後を継が
せたかったようで、今思うと
その父の策略にうまく乗せら
れたようです（笑）。」

東京農業大学の造園科を卒
業した。さんはお父さんの
会社晴風苑に入り、全国に数
百人しかいない茶庭師の仲間
入りをした。
「卒業した昭和四十年代はじ
めから茶道がちょうど盛んに
なり、忙しかったことを覚え
ています。」

さんは六席あった梅窓
院の茶庭も手掛け、手入れを
し続けてきた。
当時は中島真孝住職の頃だ
ったが、まだ新米の。さん
は直接話しをする機会はずと

んどなかったという。
「真孝先生や真哉先生の奥様
にはいろいろ教わりましたね。
当時の普光庵は日陰にあった
ことから、庭に白砂を敷き、
とても明るい作りにしたので
すが、逆に畳の焼けるのが早
くなってしまう、雨戸の開け
閉めが大変になったわ、と言
われましたね（笑）。」

昭和四十二年に梅窓院、昭
和四十六年には倉常寺の茶庭
を手掛けたが、当時はちよう
ど茶道ブーム。講談社から出
版された「茶庭——風間宗丘・
風間宗景作庭集」のお二人の
年譜を見ても、この時期は手
掛けた数が確かに多い。
「どうしてもお茶というと、
何か堅苦しいものというイメ
ージが先だつてしまいましたが、
そんなことはありません。お
いしくお茶を飲むだけなので
すから。」

仕事柄もちろん私もお茶を
やりませんが、一人でも多くの
方にお茶の良さを知ってもら
いたいですね。
真孝住職、真哉住職、そし
て現在の真成住職、それぞれ
の奥様が三人ともお茶をたし
なまれてきた。現在は先生を
お呼びして茶道教室を開いて
いるが、梅窓院にとつてもお
茶はひとつの文化事業として
根付いている。

さて、最後に茶庭作りの面
白さを聞いてみた。

根津美術館内、関中庵の腰掛
けにて。お弟子さんと共に。



「父の作庭の業をまとめてお
きたい、という気持ちから平
成七年に作庭集を出しました。
その時、父の作風を、遠州流
のきれいな寂の美意識をもつて
自然を尊び、作り過ぎを戒め
ていた」と、あとがきに書き
ました。自分の作風はとなる
と、これは周りのみなさんに
問うことになると思います。
そういう意味では作風は後
からついてくるものでしょう
が、作庭の過程で自分の狙い
が施主に納得してもらえた時
ほど嬉しいことはありません。
職人冥利につきます。」

さんには後を継いでく
れる息子さんがいる。ご自分
がお父さんの思い通りに作庭
師になったように、今度は息
子さんがその道を歩いている。
本堂復興後の新しい作庭は
スペース的にむずかしくなり
そうだが、お茶は新生梅窓院
の堂内でも続けられる。昔を
思い出しながらお茶をたのし
まれる風間さんが目に浮かぶ
ようだ。

かつて梅窓院境内にあった
普光庵の白砂の庭。



三十三観音近隣散歩 四
東京タワー

二一番増上寺の隣にそびえる東京タワー。昭和三十三年開業。高さ三三三メートルのその姿は、まさしく東京のシンボルの存在です。昨年には大展望台がリニューアルし、営業時間も午後十時まで延長される等、ますます身近になりました。

夜は華やかにライトアップされて都内の夜景を演出してくれます。増上寺境内からの眺めも本堂とのコントラストが大変美しく、おすすめの観光スポットとなっています。



地下鉄日比谷 神谷町駅 三番出口
虎ノ門登り山面成門方面 徒歩四分

浄土宗江戸六カ寺の一つで、増上寺七世観音周仰上人の弟子、縁替弥念上人により開山されました。一五八五年に紅葉山から桜田霞ヶ関に移った後、江戸城拡張のため一六一一年に現在の地へ移ったとされています。

かくて將軍家、越前、出雲松平家などの菩提寺として幕末におよび、安政六年には樺太・北蝦夷国境問題では露国使節ムラビエフとの交渉議定の会所にもなっています。



地下鉄浅草線・大江戸線 大門駅/地下鉄三田線 御成門駅/JR 浜松町駅 徒歩五分

江戸三十三観音
札所めぐり 第七回



浅草から目黒まで、ぐるり東京一周江戸観音札所巡りの旅。今回は杉並区・港区のお寺を廻ります。なんと言っても増上寺は浄土宗の大本山。立派な門構えに広い境内。この縁多い都会のオアシスで、心も身体も癒されます。

第二十番
光明山和合院 天徳寺
札所本尊 聖観世音菩薩



浄土宗江戸六カ寺の一つで、増上寺七世観音周仰上人の弟子、縁替弥念上人により開山されました。一五八五年に紅葉山から桜田霞ヶ関に移った後、江戸城拡張のため一六一一年に現在の地へ移ったとされています。

かくて將軍家、越前、出雲松平家などの菩提寺として幕末におよび、安政六年には樺太・北蝦夷国境問題では露国使節ムラビエフとの交渉議定の会所にもなっています。

第十九番
医王山東円寺
本尊 聖観世音菩薩



地下鉄丸の内線 中野富士見町駅より徒歩十分/都営バス 中野駅南口より永福町行き 母子寮前下車

真言宗豊山派東円寺は医王山と号し、一七五三年に祐海和尚によって開山されました。墓地入口にはかつて妙法寺参道の北側にあった「十三塚の碑」が移されたほか、康永三年・至徳三年銘の板碑が文化財として保存されています。なお当時の飛境内には、大山不動尊の道しるべであったと伝えられる御不動様が祀られており、現在も人々の信仰を集めています。

第二一番
大本山 増上寺
札所本尊 西向聖観世音菩薩

浄土宗の七大本山の一つ。一三九三年開山。一五九〇年徳川家康が江戸城入城の際、当時の住職源善存庵上人に帰依し、以後徳川家の菩提寺となりました。数年の内に伽藍の大造営が進み、僧侶育成の場である「関東十八檀林」の筆頭になるなど隆盛の時を迎えます。戦災により多くの建造物が焼失しましたが、近年大殿の再建、光摂殿の完成などで伽藍が整っています。



地下鉄浅草線・大江戸線 大門駅/地下鉄三田線 御成門駅/JR 浜松町駅 徒歩五分

第一番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第二番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第三番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第四番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第五番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第六番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第七番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第八番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第九番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十一番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十二番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十三番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十四番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十五番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十六番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十七番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十八番 浅草寺 東向聖観世音菩薩	第十九番 東円寺 聖観世音菩薩	第二十番 天徳寺 聖観世音菩薩	第二一番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第二二番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第二三番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第二四番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第二五番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第二六番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第二七番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第二八番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第二九番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第三十番 増上寺 西向聖観世音菩薩	第三一番 増上寺 西向聖観世音菩薩
------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

江戸三十三観音御朱印

読者の広場

昔、梅窓院に幼稚園があったと聞きましたが、本当ですか？
(横浜市Sさん)

本当です。昭和三年頃、今から三代前のご住職であった山田了然住職の発案により「梅窓院幼稚園」が設けられていました。当時から街として栄えた青山には、子供の遊び場が少なかった為、境内地を開放しようというところで始まったのでした。昭和十六年頃まで続き、青山の子供達の憩いの場として親しまれました。

「読者の広場」では皆さまからの「声」を大募集しております。梅窓院へのご意見や仏教教義のご質問、広報誌「青山」へのご感想など、ぜひお聞かせ下さい。誌面にてご紹介させていただきます。

〒107-0062
港区南青山2-26-28
梅窓院「青山」編集部宛



青山 浅田

青山散歩道

創業萬治二年。伝統の加賀料理を頂けるのが、ここ青山浅田。素材から水に至るまで全て加賀より取り寄せた最上のものでご用意。季節のものを、くつろぎの空間でたつぷり堪能できます。

法要後の一席には会食プラン



TEL 03-5411-0171
港区北青山2-7-13
プラセオ青山ビル地下1階
(梅窓院よりR246を渡って正面)
11:30~14:00 LO
17:00~22:30 (21:30 LO)
年中無休
お座敷/48名様まで
テーブル個室/18名様まで

先付けを精進料理に変更も可能。ぜひご相談下さい。



ンがおすすすめ。開始時間や料理内容など、細かい所まで相談に乗ってもらえるので、ご予約はお早めに。心づくしのお料理を頂きながら、個室でゆったりと家族団聚のひとつきをお過ごし下さい。
土・日・祭日限定会食プラン
Aプラン 一名 一万五千元
Bプラン 一名 一万円
(フリードリンク・税・奉仕料・室料込み)
※Bプランは昼食のみ
おしながき
ご昼食 三、四〇〇円
ご夕食 一、二、〇〇〇円

食は命なり

第一〇回

武鈴子

食養研究家

草春を味わう

桜の便りが聞こえてきたかと思えば、また冬に逆戻り、というように3月という月は大変難しい月です。季節の変わり目に体調を崩しやすいといわれるのもこの頃です。

3月は初旬はひな祭り、中旬からは彼岸となります。ひな祭りといえば、桃の花と菜の花を飾り、お料理はちらし寿司、蛤焼、菱餅など、女の子のお節句の料理は華やかで可愛らしいものです。この時期はまた、桜鯛や新若布など早春の海の恵みが食卓を飾ります。

寒暖入り混じり、体調が乱れやすい時期ですが、滋味豊かな鯛やミネラルたっぷりの新若布をつかったしゃぶしゃぶ鍋で春の邪気から体を守りましょう。

【桜鯛と若布のしゃぶしゃぶ】

【材料】

桜鯛、新若布、菜の花、梅味噌、昆布出汁

【作り方】

- ①菜の花はさっと湯通しして水にとり、手で絞って4cm長さに切る。
- ②若布は水洗いしてざく切りにする。
- ③鯛は刺身状にそぎ切りにする。
- ④鍋に出汁昆布を入れて沸いてきたら取り出し、材料を入れて、梅味噌で食べる。梅味噌は鍋の出汁でのばし、各自の好みの味に調えるとよい。まず鯛をしゃぶしゃぶの要領で出汁にくぐらせていただく。若布、菜の花の順序で食べるとよい。こうすると鯛から出汁が出て美味しくなる。

◎選者詠

下駄箱の上にはちよこんと鏡餅

大崎紀夫

「ウンポイントアドバイス」
「甘酒」や「氷雨」は冬の季語と間違えられがちですが、昔、甘酒は暑気払いのため夏に飲まれており、氷雨は霰（あられ）のことを指している事から、夏の季語となります。ご注意ください。

投句募集

今回のテーマは「つくし」「桜餅」です。4月10日を締切、6月上旬発送の『施願鬼号』にて発表させていただきます。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。お待ちしております。

※港区南青山2-26-38

梅窓院

「青山俳壇」投句募集係

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

初明／かがみもち

◎特選

初明かり北に丹沢西に富士

(評)初明かりの中に浮かぶ山の姿。印象鮮明なさわやかな句です。

な句です。

◎佳作

初明かり紅濃くなりし小松原

初明かりシャッターをきる時は今

豊稜の証しなりしや鏡餅

鏡餅一等席に置かれをり

あばら家の壁より洩れる初明かり

大阿蘇に雲の湧きぬる初明かり

「やぶれ傘」会員募集
青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、左記の番号までご連絡下さい。
※ウエップ編集室
電話〇三(五三六八)一八七〇

・ 行 ・ 事 ・ 告 ・ 知 ・



善光寺本堂前。御開帳には大勢の参詣者で賑わう。



信州善光寺 団体参拝旅行
五月十六日(金)・十七日(土)
一泊二日バス旅行
七年に一度の御開帳
秘仏「前立本尊」との出会い
今年には善光寺の秘仏「前立本尊」が七年に一度、公開される節目の年です。前回の平成九年には、御開帳期間中だけでも五一五万人もの参拝者があつたといわれており、国内外を問わず、大勢の方が長野を訪れる一大イベントとなっております。
この度、梅窓院でも御開帳参拝の旅を企画致しました。善光寺参拝し、宿坊に泊まり、精進料理を頂きます。更に早朝の「お朝事」参詣、お数珠頂戴や戒壇巡りを体験するなど、見所を余す所なく盛り込んだ行程となっております。この機会に皆さまお誘い合わせの上、ぜひご参加下さい。

参加者募集中
お問い合わせ／青山文化村
TEL〇三(三三)四〇四八四四七
FAX〇三(三三)四〇四八一〇七



見学予定のベルヴェデーレ宮殿。(ウィーン)

三ヶ寺合同海外団参旅行
魅惑の国 オーストリアと
古都ブラハを訪ねて
八月二十日～二十八日
七泊九日
傳通院・祐天寺・梅窓院の三ヶ寺の交流を深めようと企画された合同海外団参。今回は街並みも美しい東欧諸国を訪ねます。
訪問先は音楽の都ウィーン。そこは当院で開かれるリサイタルでお馴染みのファンテンフック氏の活躍の場でもあります。芸術の香りが溢れる街並みを散策し、日常とは違った時間を過ごしませんか？
ご参加お待ちしております。

◆ 梅窓院だより ◆ 復興事業新着情報



墓地内通路の全面改修工事が進んでおります。雨の日でも足元が滑ることなくお参り頂けます。



新本堂建設地(一月三十日墓地より撮影)
左手手前は寺院棟、奥は住居棟。右手には業務棟が建つ。

来寺される皆様へ

- 新本堂建設中の為、駐車場はありません。車での来寺はご遠慮下さい。
- 墓地内の一部にて、移設工事を行っております。大変ご迷惑をおかけ致しますが、足元にお気をつけてお参り下さい。
- 降雨時の墓参用に長靴をご用意しました。東屋でお履き変え下さい。